

インドクジャクの「パプリカくん」

朝、飼育員がとりっこ村を掃除するため、そこに入ると、迫力ある出迎えをしてくれるのは、インドクジャクでは一番、尾羽が長い「パプリカくん」。

「どうだ」と言わんばかりに、扇状の羽を広げるんです。羽には、輝くような目玉模様がたくさんあって、思わず見入ってしまいます。ときに飼育員に向けたり、ときに同居している雌に向けたりして、必死に自分の魅力をアピールしているんです。

飼育員 日誌

須坂市動物園



残念なのはそうたびたび、羽を広げた光景を見られないことです。パプリカくんが気乗りましたときだけで、見られる確率はどちらかというと低

「どうだ」と自慢の羽アピール

いのです。それでも気乗りする時間帯はあるみたいで、こっそり読者のみなさんにお教えします。早朝と夕方です。

雌は、雄に比べると地味な色をしています。首は、光沢がかった緑色をしていてきれいなんですが、そのほかの羽の模様が、全体的に茶色っぽいからです。「もう少しおしゃれをしたら」とアドバイスをしたいくらい。でも、そんなの人間の都合だし、クジャク界ではこの方がいいのだろう、と思うのです。

